

むかしから、みようがを食べると、よくものわすれするといわれています。

あるところに、欲ばりの宿屋の主人がいました。あるとき、お金持ちの旅人が、宿屋に泊まりました。主人は、旅人がお金をたくさん持っているのを見て、なんとかしてあのお金を手に入れたと思います。ところが、この旅人が、

「ぬすまれたら心配なので、このお金を明日の朝まで預かっておいてくれないか」といいました。主人は、しめたと思って、お金を預かりました。

主人は、番頭をよんで、

「今晚泊まったあのお金持ちに、しっかりみようがを食わせるように。そうすればお金を預けたことをわすれるに違いない」といいました。番頭は、晩ご飯に、高いみようがをたくさん買って来て旅人のおぜんに出しました。旅人は、なんだかみようがばかりだなと思いつつながら食べました。

あくる朝、旅人は早く起きて、朝ご飯をすませ、旅のしたくをして、玄関の縁に腰をかけて、わらじのひもを結びはじめました。主人も番頭も、思うつぼだとよろこんでいると、旅人が、

「きのうお預けしたお金をいただきたい」といいました。主人も番頭もびっくりぎょうてんわすれてなかったのかとがっかりして、しびしび顔でお金を出してきてわたしました。

旅人が行ってしまったあと、落ち着いて考えてみたら、旅人は宿賃をはらうのをわすれていましたとき。

おしまい